

年頭にあたって～「論語」あれこれ～

人にして遠き慮(おもんばかり)無ければ、必ず近き憂い有り。

孔子

今月は、1年の始まりということから、「論語」からいくつか箴言をご紹介します。仕事の進め方等について、考えてみたいと思います。冒頭の箴言ですが、大意は「人として遠くまでの配慮がないようでは、きっと身近に心配ごとが起こる」(「論語」(岩波文庫))となります。この箴言は、「遠き慮り」が、色々と解釈できますが、ここでは、「遠く」を時間的に捉え、将来や先々への「見通し」や「配慮」と解釈したいと思います。

以前に仕事を効率よく進める視点として、「Prospect」(プロスペクト、「見通し」「展望」)の重要性についてお話させていただいたことがあります。孔子の言説と並べるなど甚だ僭越ではありますが、この箴言を裏返せば、先々のことに配慮や目配りのできる人は、目の前のことにもきちんと対処でき、心配や憂いがないということになります。確かに、私の個人的な経験から言っても、仕事を効率よく進める人は、何らかの形で、その人それぞれの「見通し」や「展望」をもって仕事に当たっていた気がします。いずれにせよ、自らができる範囲で、先々の見通し等を持ちながら仕事を進めていくことが、仕事の成果を効率的にあげる上で、大事な視点ではないかと思えます。

また、「論語」には、こんな箴言もあります。「君子は諸(こ)れを己に求む。小人(しょうじん)は、諸れを人に求む」(君子は自分に[反省して]求めるが、小人は他人に求める。)(同書)君子とは、いわゆる「徳に通じた立派な人」というような意味ですが、君子か小人かはともかく、何かミスや失敗などをした時に、その原因を人のせいにならず、自分に至らない点が無かったかどうか、振り返ったり、反省したりすることは、その人の人間的成長にとって重要な点だと思います。人は誰も自分がかわいいので、責任を他者や周囲の環境等に求めてしまいがちですが、常にそのような姿勢では、人間的な成長も、人間関係の発展も多くは望めないのではないかと思います。

ミスや失敗等に関連した箴言では、こんなものもあります。「過(あやま)ちて改めざる、是を過ちと謂(い)う」(過ちをしても改めない、これを[本当の]過ちというのだ。)(同書)この箴言は、論語の中でもかなり有名なものだと思います。何か過っていたり、おかしいと思っていたりしても、保身や忖度等様々な事情により、中々改めないのは春秋戦国時代から現代まで続く人間社会のサガかもしれません。

人間は、誰もうっかりミスをしてしまうことがあります。そんなとき、一番大事なことは、この箴言にもあるように、それを正そうとする姿勢や行動です。特に職員の皆さんにお伝えしたいことは、もし仕事上で何かミスをしてしまったら、必ず上司等に相談をして欲しいということです。ミスを自分で取り繕うとしたり、いわんやそれを隠蔽したりするようなことは決してしないでください。そうした行為が、単純なミスを事故や不祥事にしてしまうのです。仮に何かミスをして、正しい方法で対処すれば、相応にリカバリーできるということを、胸に刻んでおいていただければと思います。

最後になりましたが、関係各位におかれましては、本年もご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7(2025)年1月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス
理事長 松井 聡 明